

第 34 回 COE フォーラム

講師は、日本鳥学会で来盛される立教大学大学院の田中啓太博士です。自分の雛を他種に育てさせる「托卵」という独特の繁殖様式を持つ鳥の行動生態の研究を紹介していただきます。直感的で分かり易いお話になると思われそうですので、専門外の方もぜひご参加ください。

なお、田中氏の研究内容が昨年 *Science* 誌に発表されました。興味のある方は以下をご覧ください。

Tanaka KD, Ueda K. 2005. Horsfield's hawk-cuckoo nestlings simulate multiple gapes for begging. *Science* **308**: 653.

日時： 2006 年 9 月 15 日（金曜日）17:00～18:30

場所： 岩手大学農学部 4 番教室

演題： ジュウイチの雛による宿主操作： 鳥類における認知と寄生者による搾取

講師： 田中 啓太 氏

立教大学大学院理学研究科生命理学専攻

日本学術振興会特別研究員（PD）

要旨：

多くの生物において、子孫に養分などを提供し、その生存や繁殖成功の確率を上昇させることは自身の遺伝子の複製を集団中に広げうため、適応的であると言える。動物におけるこの親による子への投資（parental investment）は、養分などの物質面においてだけでなく、世話という行動の形もとる。つまり、親による世話（parental care）である。様々な資源と同様に、親による投資は捕食者や寄生者によって搾取されるが、特に親による世話行動を搾取することは托卵寄生（brood parasitism）と言われ、鳥類のほか、魚類、昆虫類などで知られている。

ジュウイチ（*Cuculus fugax*）は東アジアに生息するカッコウ科の托卵鳥で、日本には夏鳥として飛来し、繁殖を行う。オオルリ、コルリ、ルリビタキといった"青い鳥"を宿主として選ぶことが知られており、メスはそれらの鳥の巣に青い卵を産み込む。ジュウイチの雛は他の鳥では報告されていない非常に珍しい特徴を持っている。翼の裏側は羽根が生えておらず、口の中の皮膚と同じ色の鮮やかな黄色い皮膚が裸出しており、給餌の際、翼を持ち上げ、その皮膚裸出部を宿主に対して誇示する。我々は、ジュウイチの雛がこの皮膚裸出部によって巣の中にいる雛の数を多く見せかけ、生育に十分な餌を運ぶよう宿主を操作しているという仮説を立て、検証を行った。

キーワード：

行動生態学、鳥類学、托卵寄生
